

流体制御の明日を開く



株式会社オーケーエム

2023年3月期第2四半期 決算説明資料

2022年12月2日

株式会社オーケーエム

Webページ: <https://www.okm-net.jp/>

証券コード: 6229



I. トピックス	2
II. 2023年3月期第2四半期 決算	4
III. 2023年3月期 業績予想	12
IV. 第1次中期経営計画の進捗について	16
Appendix. オーケーエムについて	23

流体制御の明日を開く



I. トピックス

2023年3月期第2四半期のトピックス

- ✓ バルブ製造業界は、プラント向け、半導体工場向けの設備投資が回復し、国内造船所の新造船受注量が過去最大となるなど好調であり、業界全体として売上高が回復傾向にある。
- ✓ 売上高は前期比+9.9%となった。陸用については、電力・ガス、石油化学関連向けを中心に伸長し前期比+13.2%。舶用は、大型コンテナ船向けや船舶排ガス用バルブが堅調に推移し前期比+6.7%となった。
- ✓ 原材料価格の高騰等の影響を受けたが、販売価格改定の取り組み効果等により営業利益は前期比+23.1%、営業利益率は7.2%となった。
- ✓ 販売について、円建ての売上比率が大きいため為替の影響は少ない。製造については、原材料価格高騰の影響が大きいため、生産工程や仕入れの見直しを検討している。
- ✓ 2022年9月15日、第2四半期および通期の業績予想を上方修正した。
- ✓ 2022年6月20日、中国子会社の奥村閥門(江蘇)有限公司にて製造した世界シェアNo.1の船舶排ガス用バルブを初出荷した。
- ✓ 2022年6月18日にオンライン、8月27日に京都で対面の個人投資家向け説明会を実施した。
- ✓ 2022年6月14日、オーケーエムグループのサステナビリティ(持続可能性)の向上を図ることを目的としてサステナビリティ委員会を設置した。

流体制御の明日を開く



Ⅱ. 2023年3月期第2四半期 決算



2023年3月期第2四半期 決算サマリー

(百万円、%)

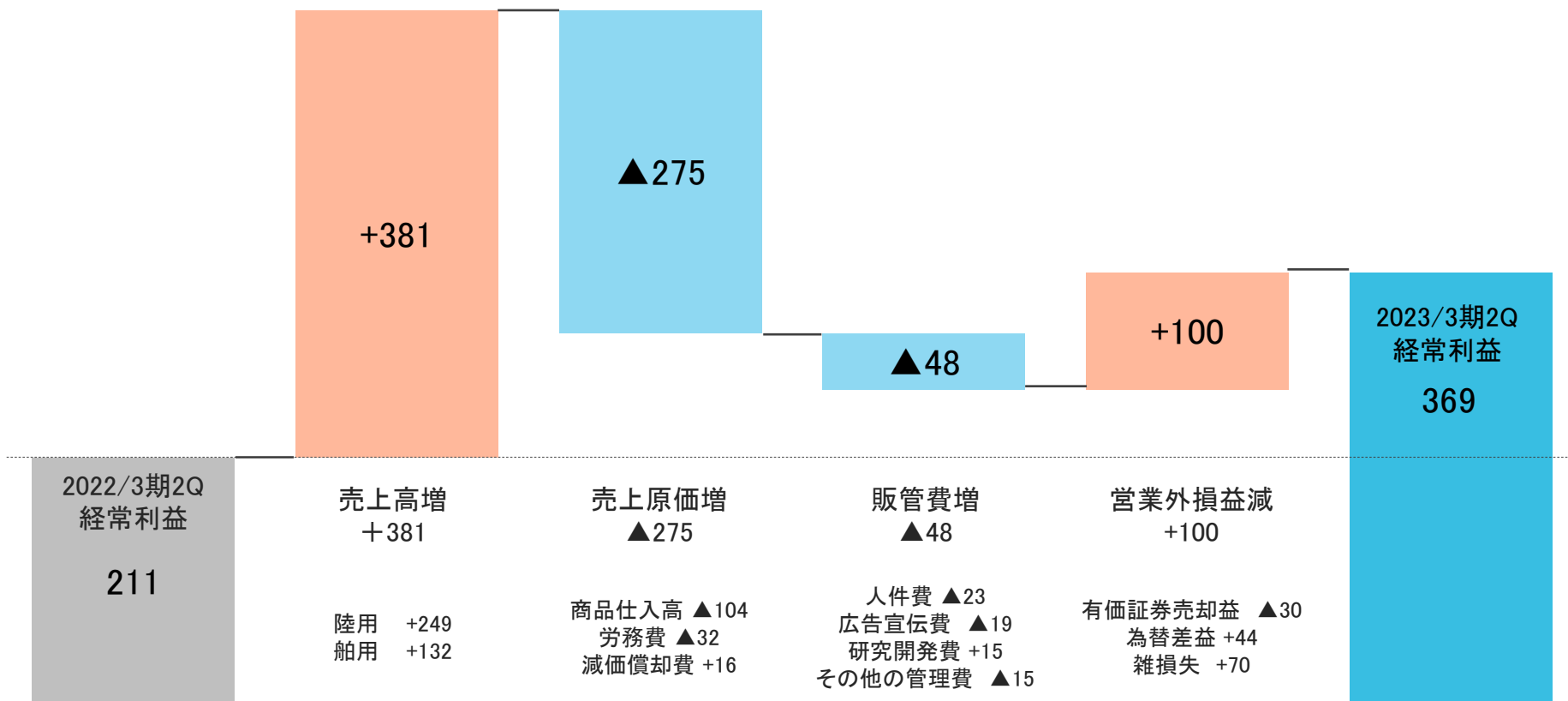
	2021/3期2Q			2022/3期2Q			2023/3期2Q				
	実績	売上比	前年同期比	実績	売上比	前年同期比	実績	売上比	前年同期比	期初予想	期初予想比
売上高	4,439	100.0	-	3,858	100.0	▲13.1	4,239	100.0	9.9	4,350	▲2.5
営業利益	722	16.3	-	248	6.4	▲65.6	305	7.2	23.1	205	49.1
経常利益	734	16.5	-	211	5.5	▲71.2	369	8.7	74.9	200	84.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	526	11.9	-	510	13.2	▲3.1	224	5.3	▲56.0	145	54.9

	2021/3期2Q	2022/3期2Q	2023/3期2Q
総資産	10,749	11,995	12,666
純資産	6,054	8,104	8,839
自己資本比率(%)	56.3	67.6	69.8
1株当たり配当金 (円)(株式分割調整後)	年間40円 (普通配当35円 記念配当5円)	年間45円 (普通配当35円 記念配当10円)	年間35円予定

- ✓ 売上高は陸用・船用ともに前年同期比で増加。
- ✓ 原材料価格の高騰等の影響を受けたものの、売上高の増加や販売価格改定の取り組み効果等により営業利益、経常利益ともに増益。
- ✓ 中国子会社の補助金収入等が今期は計上されなかったことにより四半期純利益は減益。

経常利益増減分析

(百万円)



- ✓ 売上高は陸用・船用ともに増加。
- ✓ 原材料価格高騰・数量増により商品仕入高が増加。
- ✓ 給与制度の改定(ベースアップ)や給与手当の見直し実施により労務費・人件費が増加。
- ✓ 営業外収益として、為替差益が増加。

売上高構成(地域別)

(百万円、%)

<地域別売上高>	2021/3期2Q (*)		2022/3期2Q		2023/3期2Q	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	4,439	-	3,858	▲13.1	4,239	9.9
日本	3,381	-	2,698	▲20.2	3,279	21.5
韓国	537	-	673	25.3	403	▲40.1
中国	305	-	300	▲1.9	311	3.6
マレーシア	88	-	104	18.7	113	8.4
その他	126	-	82	▲35.1	133	61.5

(*) 2021/3期2Qは参考値

- ✓ 韓国では、船舶排ガス用バルブが競合他社からの価格攻勢を受けて減少。
- ✓ 中国では、船舶排ガス用バルブを初出荷。水処理や塗装設備案件の引き合いが増加。
- ✓ マレーシアでは、半導体工場向けの販売により増加。

売上高構成(市場、業界別)

(百万円、%)

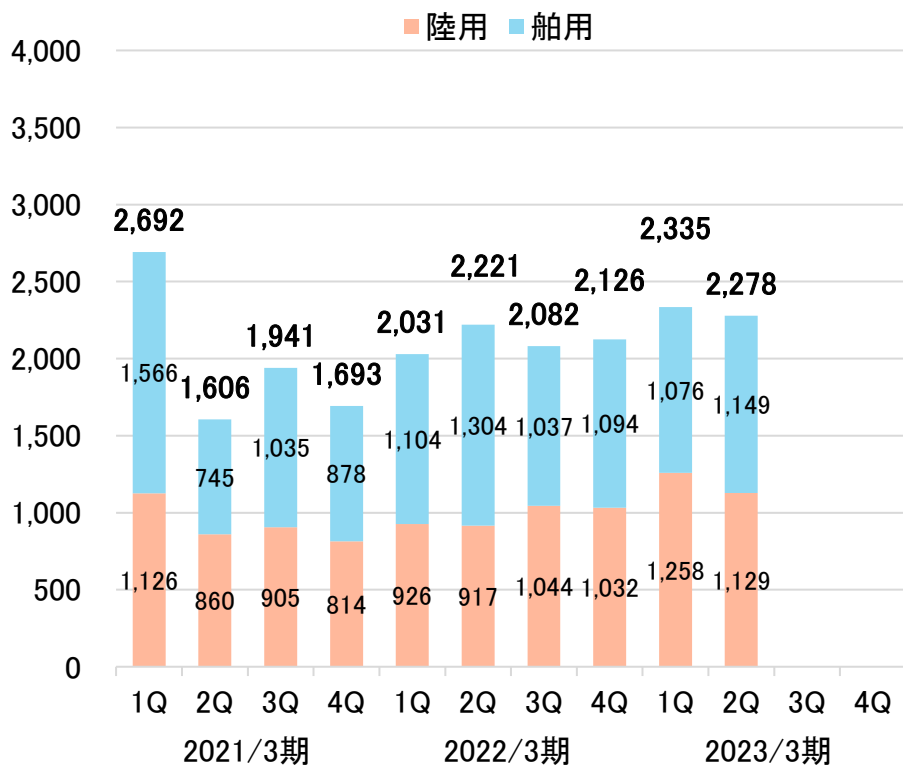
<市場別売上高(連結)>	2021/3期2Q (*)		2022/3期2Q		2023/3期2Q		備考
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	
売上高	4,439	-	3,858	▲13.1	4,239	9.9	✓ 首都圏の超高層ビルや半導体工場向けの納入が継続(陸用)。 ✓ 船舶排ガス用バルブは堅調に推移(船用)。 ✓ 超大型コンテナ船向けに納入(船用)。
陸用	2,084	-	1,890	▲9.3	2,139	13.2	
船用	2,355	-	1,968	▲16.4	2,100	6.7	

<業界別売上高(単体)>	2021/3期2Q (*)		2022/3期2Q		2023/3期2Q		備考
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	
売上高	4,173	-	3,533	▲15.3	3,899	10.4	✓ 半導体関連材料製造ラインの増設工事向けに納入(石油化学)。 ✓ 高炉の大規模改修工事向けに納入(鉄鋼・金属)。 ✓ 原発向けの特需、バイオマス関連に対応(電力・ガス)。 2023/3期2Q 売上高比率 <ul style="list-style-type: none"> ■ 船用 ■ 建築設備 ■ 石油化学 ■ 鉄鋼・金属 ■ 電気・ガス ■ 陸用その他
陸用	1,898	-	1,641	▲13.5	1,895	15.5	
建築設備	250	-	258	3.0	288	11.7	
石油化学	191	-	269	40.9	334	24.0	
鉄鋼・金属	84	-	185	119.4	216	16.8	
電力・ガス	105	-	150	42.2	216	44.2	
その他	1,268	-	777	▲38.6	839	7.9	
船用	2,275	-	1,892	▲16.8	2,004	5.9	

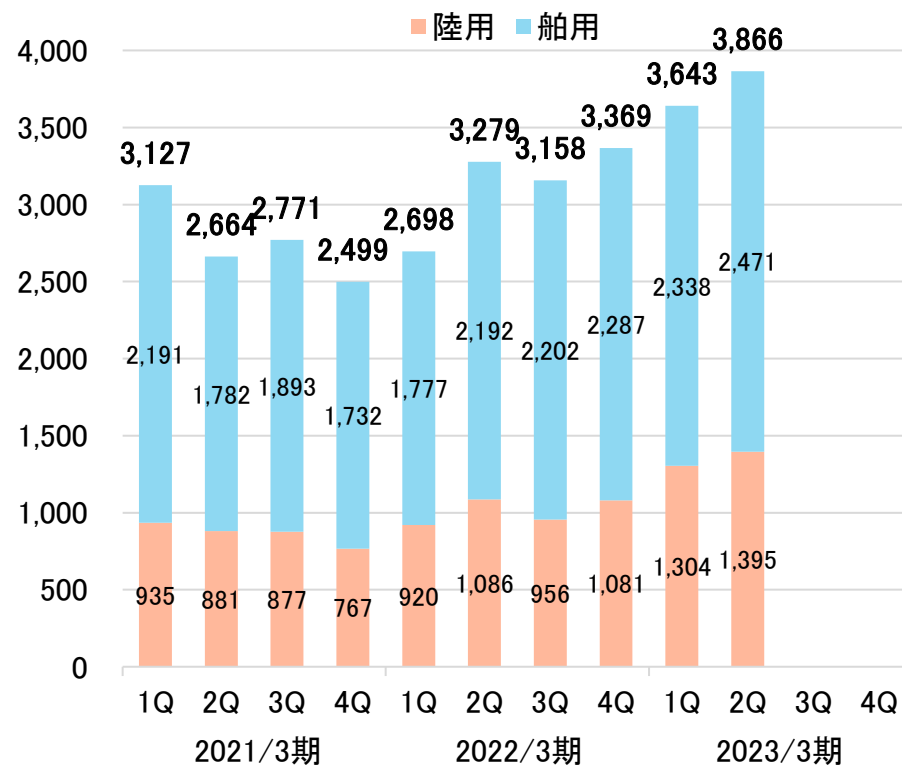
四半期毎受注高・受注残構成(市場別・単体)

(百万円)

受注高



受注残



- ✓ 受注残は前四半期から継続して過去最高を更新。
- ✓ 船用では環境規制対応船の建造比率の継続的な高まりにより、船舶排ガス用バルブの発注が増加。
- ✓ 陸用においても、首都圏の高層ビル建設に伴う空調設備向けや国内半導体工場向けを中心に回復基調。

貸借対照表

(百万円)

<主な項目>	2022/3期2Q	2022/3期	2023/3期2Q	備考
資産合計	11,995	12,365	12,666	
流動資産	7,394	7,925	8,163	
現預金	2,995	3,480	3,251	✓ 現預金▲228百万円。
売上債権	1,628	1,939	1,850	✓ 売上債権▲88百万円。
棚卸資産	2,477	2,398	2,947	
固定資産	4,601	4,440	4,502	✓ 棚卸資産+548百万円。
建物及び構築物(純額)	2,669	2,657	2,697	
土地	717	695	710	
負債合計	3,891	3,845	3,826	
流動負債	2,100	2,166	2,260	
支払債務	740	991	1,176	✓ 支払債務+184百万円。
固定負債	1,790	1,678	1,566	✓ 長期借入金▲84百万円。
長期借入金	1,484	1,363	1,279	
純資産合計	8,104	8,520	8,839	
株主資本	8,087	8,427	8,448	✓ 為替換算調整勘定+297百万円。
為替換算調整勘定	18	89	387	

キャッシュ・フロー

(百万円)

<主な項目>	2021/3期2Q	2022/3期2Q	2023/3期2Q	備考
営業キャッシュ・フロー	462	273	8	
税金等調整前四半期純利益	732	689	369	✓ 税金等調整前当期純利益の減少。 ✓ 売上債権の減少。 ✓ 売上債権の減少。 ✓ 仕入債務の増加。 ✓ 仕入債務の増加。 ✓ 棚卸資産の増加。
売上債権の増減額(▲は増加)	▲184	144	104	
棚卸資産の増減額(▲は増加)	157	▲172	▲473	
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲2	▲110	164	
未払又は未収消費税等の増減額	▲88	37	▲53	
補助金の受取額	0	324	▲10	
法人税等の支払額	▲155	▲91	▲234	
投資キャッシュ・フロー	▲528	▲179	▲198	
定期預金の預入による支出	0	▲117	▲117	✓ 工具器具の増加(有形固定資産)。
有形固定資産の取得による支出	▲509	▲158	▲44	
保険積立金解約による収入	—	92	—	
財務キャッシュ・フロー	58	▲358	▲334	
長期借入金の返済	▲140	▲147	▲108	✓ 1株当たり45円(普通配当35円、創業120周年記念配当10円)の配当金の支払い。
配当金の支払い	▲66	▲180	▲203	
現金および現金同等物残高	1,992	2,303	2,366	✓ 現金および現金同等物残高の増加。

流体制御の明日を開く

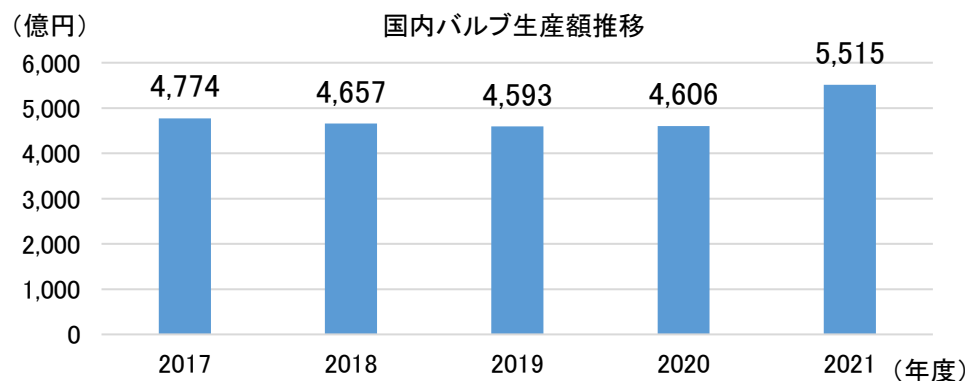


Ⅲ. 2023年3月期 業績予想

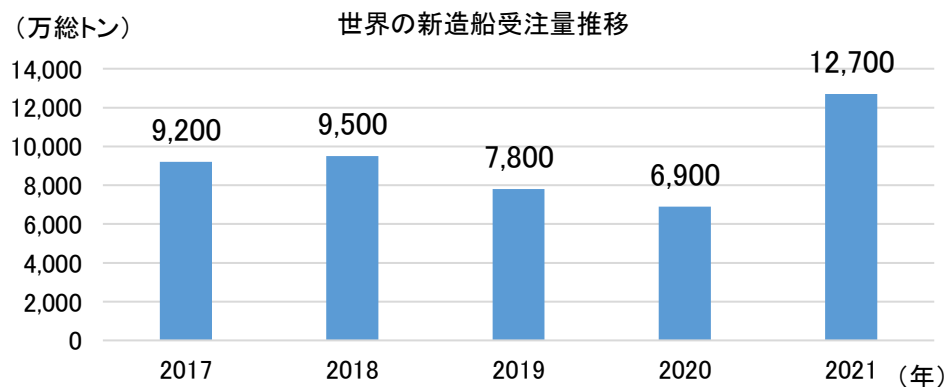
2023年3月期の業界環境と業績動向

✓ 業界環境

日本のバルブ生産額は30年ぶりに過去最高額を更新し、今後も堅調な需要が持続すると見込まれる。また、世界的な海上貨物量の増加に伴い、世界の新造船受注量が2021年に大きく増加しており、国際的な環境規制に対応する船舶排ガス用バルブを含む船舶用バタフライバルブの需要が拡大する見込み。



(出典) 経済産業省「鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計」



(出典) 日本船用工業会資料等より当社作成

✓ 業績動向

2023年3月期の売上高は、陸用、船用ともに足元の市場環境に明るさが出てきており、受注が回復傾向にあることから、当初の予想どおりに推移する見込み。利益面につきましては、当初の予想では原材料価格の高騰の影響を最大限見込んでいたが、その影響が想定を下回る見込みであること、また、価格転嫁の取り組み、各種経費削減の取り組みが一定程度利益を押し上げる見込みであることから、営業利益、経常利益、純利益の業績予想を上方修正した。

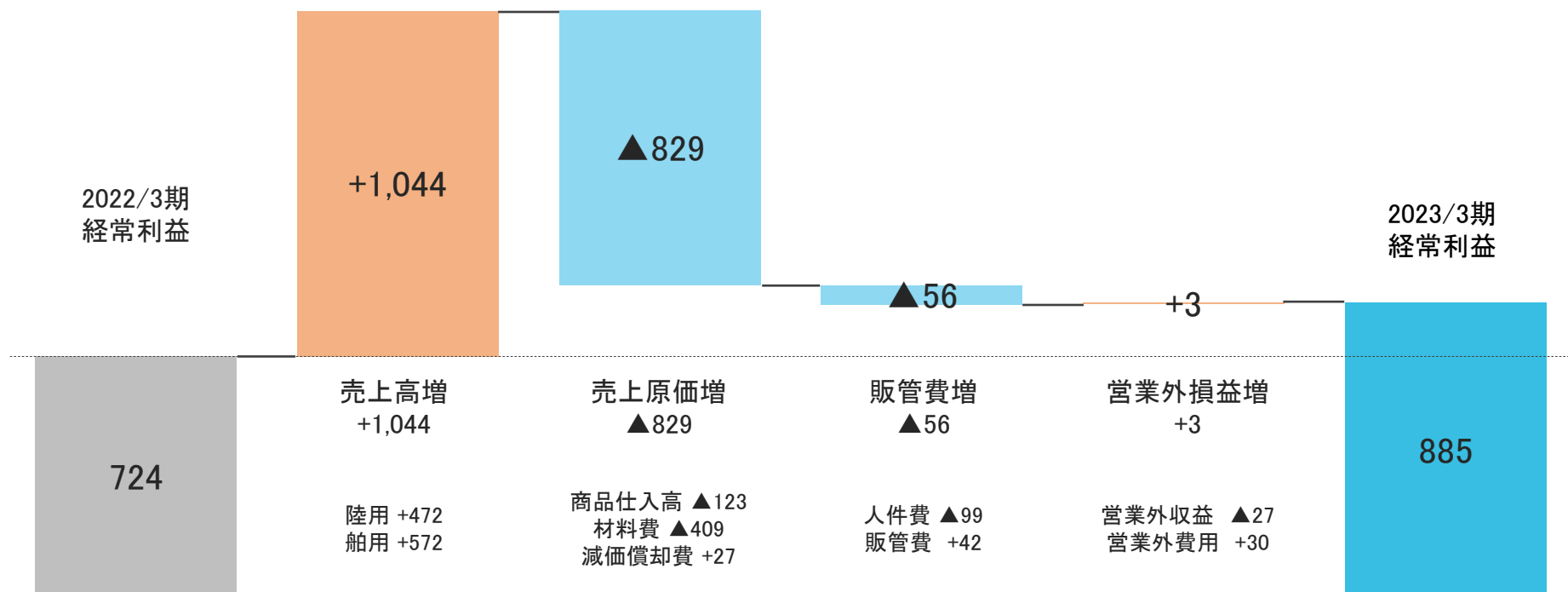
2023年3月期 業績予想サマリー

(百万円、%)

	2021/3期		2022/3期		2023/3期 業績予想(9/15修正)					備考
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	予想	売上比	前年同期比	期初予想	期初予想比	
売上高	8,759	▲1.0	8,456	▲3.5	9,500	100.0	12.3	9,500	0.0	(前年同期比) ✓ 陸用 +11.0% ✓ 船用 +13.7%
営業利益	1,009	13.0	662	▲34.4	820	8.6	23.8	630	30.2	✓ 売上原価 +15.4% ✓ 販管費 +2.4%
経常利益	1,025	20.8	724	▲29.3	885	9.3	22.1	635	39.4	✓ 営業利益増による増益
親会社株主に帰属する当期純利益	749	30.8	850	13.4	520	5.5	▲38.8	430	20.9	✓ 中国子会社の補助金収入等が今期は計上されないことによる減益
1株当たり配当金(円) (株式分割調整後)	40 (普通配当35円 記念配当5円)		45 (普通配当35円 記念配当10円)				35			✓ 配当金額は維持

経常利益増減分析

(百万円)



- ✓ 陸用では、半導体工場の増産投資や各種プラントの設備の改修案件等の引き合いが増加。また、首都圏の再開発が進んでおり、超高層ビル向けの納入を開始している。
- ✓ 船用においては、LNG燃料船等の環境規制対応船や大型コンテナ船向けの需要が拡大する見込み。
- ✓ 原材料価格の高騰等により売上原価が増加。
- ✓ 社員満足度向上のための人事・給与制度の見直し(ベースアップ等)に伴う人件費の増加。

流体制御の明日を開く



IV. 第1次中期経営計画の進捗について

第1次中期経営計画の基本方針

パーパス

いい流れをつくる。

目に見えるもの、見えないもの。私たちは、あらゆる流体をつないでいる。
社会の課題を見つけ環境を考え、働きやすく暮らしやすい世の中へ導く。
私たちは信じている。独創的な技術で、いい流れをつくる。

社是(創業の精神)

- 一 独創的な技術
- 二 最高の品質 最低の資源消費
- 三 余裕ある生活と豊かな心
- 四 地域社会に貢献する

中長期ビジョン「Create 200」

- (1) 世界の成長市場向けに、新商品開発とラインナップの拡充を行い、お客様に選ばれ続ける企業になる。
- (2) 70期(2030年度)にグループ連結売上高200億円を達成する。
- (3) 活気あふれ、社員が働きがいや自己の成長を実感できる企業になる。

基本方針

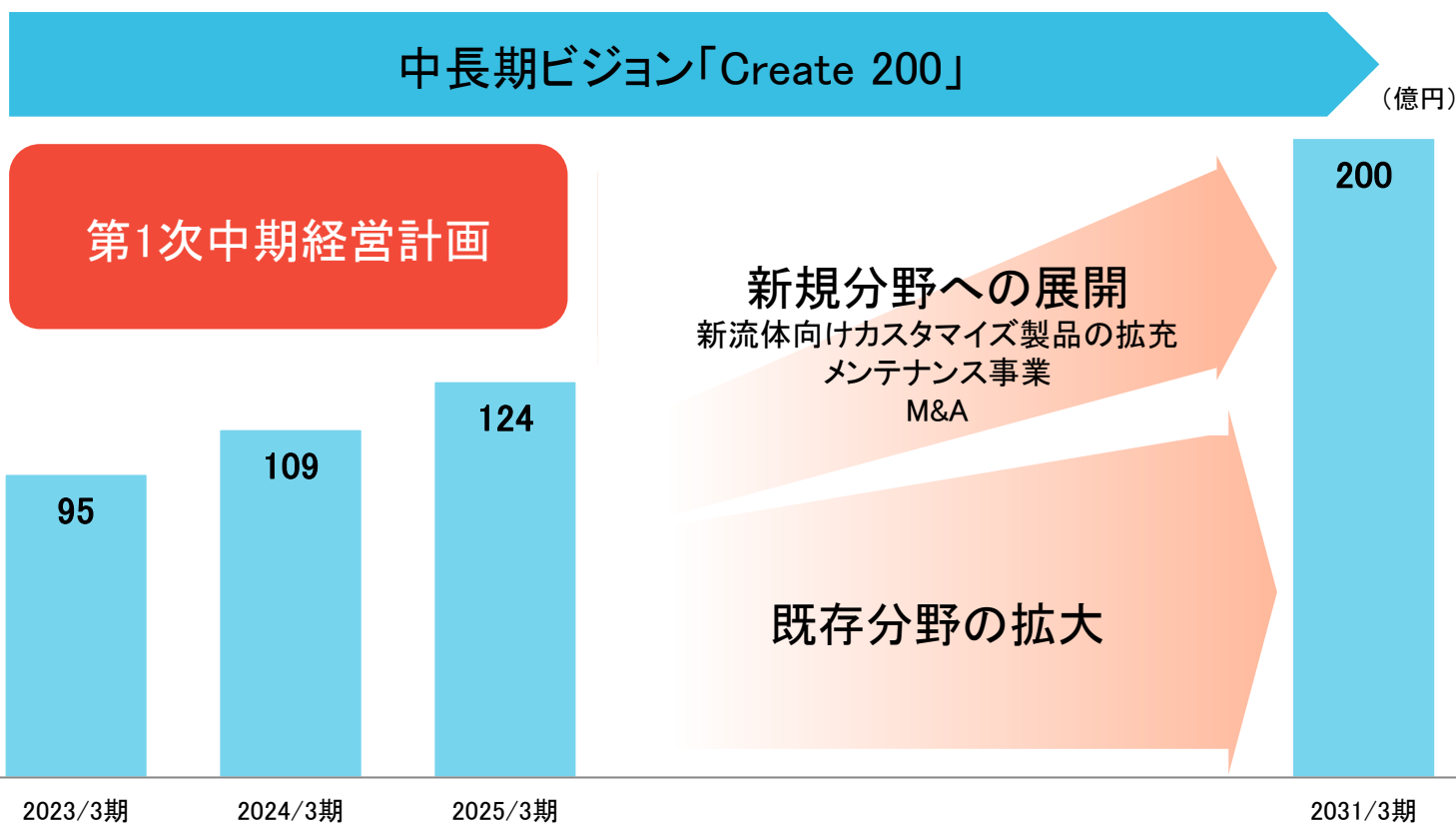
脱炭素化に向けたクリーンエネルギー市場を含む成長市場に対応できる
新商品開発と販売体制を確立する

第1次中期経営計画の位置づけ

基本方針

脱炭素化に向けたクリーンエネルギー市場を含む成長市場に対応できる新商品開発と販売体制を確立

<売上高イメージ>



変革期

成長期

第1次中期経営計画の基本方針と基本戦略

基本方針

脱炭素化に向けたクリーンエネルギー市場を含む成長市場に対応できる新商品開発と販売体制を確立する

基本戦略

戦略Ⅰ 成長市場に対応できる新商品開発と販売体制を確立する

戦略Ⅱ 既存の商品力を強化する

戦略Ⅲ 企業風土を変革し、サステナブルに成長・発展する





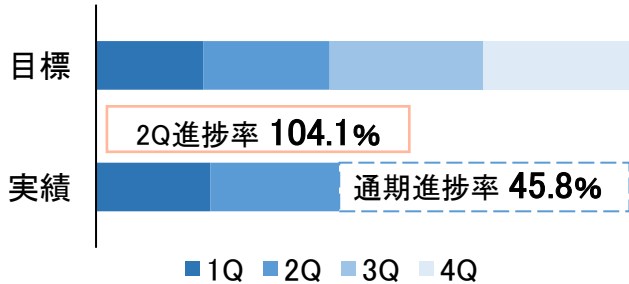
戦略Ⅳ 社員満足度を向上させる

基本戦略別施策の進捗

	施策	進捗評価	実績
戦略Ⅰ 成長市場に対応できる 新商品開発と販売体制を 確立する	脱炭素社会向け製品の 研究開発	○	・液化水素用大口径バタフライバルブの研究開発が計画通りに進捗 ・北海道大学のイノベーションプログラム「DEMOLA」に参画
	低炭素社会向け製品の 販売展開	○	・LNG用バルブを試験搭載も含めて2隻へ納入し、14隻の受注を獲得 ・LNG用バルブのコスト削減のため、生産工程の見直しを実施
	船舶排ガス用バルブ 製造・販売の強化	△	・モデルチェンジ機「ExV MARK II」を販売開始 ・中国子会社から中国最大手の船舶用エンジンメーカーへ初出荷
	新たな販売体制の構築	△	・韓国内での船舶排ガス用バルブのメンテナンスサービス準備を進める ・2023年2月公開を目指して、ソリューションサイト制作に着手
戦略Ⅱ 既存の商品力を強化する	生産体制の変革	○	・生産管理システムの再構築を実施中 ・「製造現場へのAI/IoT導入促進補助金」を活用し、要素開発を開始
戦略Ⅲ 企業風土を変革し、サス テナブルに成長・発展する	ガバナンスの向上	○	・グループ経営による利益最大化の取り組みを開始 ・中国子会社でコンプライアンス取り組み強化により意識向上
	サステナビリティをめぐる 課題への取り組み推進	○	・サステナビリティ委員会を設置し、マテリアリティの特定などを実施 ・給与制度の改定や給与手当の見直しを実施
戦略Ⅳ 社員満足度を向上させる	人材育成の加速化	○	・社員のスキル向上のため、階層別研修を継続して実施 ・人事制度を見直し、下期に移行
	ワーク・ライフ・バランス の推進	○	・年間休日の増加(117日→120日)やテレワーク対応を実施 ・福利厚生サービスを新サービスに移行

(◎～大変順調に進捗している ○～順調に進捗している △～やや遅れている ×～遅れている)

施策進捗トピックス①

<p>脱炭素社会向け製品の研究開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・液化水素用大口径バタフライバルブの研究開発(令和3年度の経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)」は計画通りに進捗) ・2022年5月に「一般社団法人水素バリューチェーン推進協議会(JH2A)」に参画
<p>低炭素社会向け製品の販売展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LNG用バルブを試験搭載も含めて2隻へ納入し、14隻の受注を獲得 ⇒ 「中計期間中に20隻導入」の目標に向けて順調に進捗 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>低温流体試験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>極低温用ハイパフォーマンスバタフライバルブ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>導入隻数</p>  × 2 隻</div> <div style="text-align: center;"> <p>受注隻数</p>  × 14 隻</div> </div>
<p>船舶排ガス用バルブの製造・販売の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・船舶排ガス用バルブ「ExVシリーズ」のモデルチェンジ機「ExV MARK II」を2022年4月から販売開始 ・中国子会社にて製造した船舶排ガス用バルブを中国最大手の船舶用エンジンメーカーへ初出荷 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>船舶排ガス用バルブ売上進捗率</p>  <p>■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q</p> </div>

施策進捗トピックス②

ガバナンスの向上	・コーポレートガバナンスの強化	コーポレートガバナンス・コードをテーマに、取締役・執行役員・補欠監査等委員の龍谷大学辻田素子教授とディスカッション実施	 ディスカッションの様子
	・中国子会社のコンプライアンス強化	毎月の研修実施によるコンプライアンス強化	
	・情報発信の強化	テレビ・新聞・ラジオ等メディアへの露出 個人投資家向け説明会開催(2022年6、8月)	
サステナビリティをめぐる課題への取り組み	・サステナビリティ委員会を設置し、マテリアリティの特定に向けて社内およびステークホルダーと協議	2023年3月頃、マテリアリティ、サステナビリティの取り組み、各KPIなどを開示予定	
	・給与制度の改定	給与制度改定後の給与上昇率7.6%(2022年6月実績) 男女間賃金格差76.4%(平均女性賃金/平均男性賃金) (2022年3月期実績)	
	・地域社会への貢献	琵琶湖の清掃イベントや全国植樹祭しが2022にボランティアとして参加(2022年5、6月)	
人材育成の加速化	・階層別研修の拡充	2023年3月期計画 ※その他研修は除く 受講者数188人、受講総時間2,742時間、金額6百万円	
	・女性活躍の推進	周年事業の一環として、アンケートを実施し女性社員の制服を刷新、作業服についても下期中に刷新予定	
ワーク・ライフ・バランスの推進	・男性社員の育休取得推進	2023年3月期計画 男性社員育休取得率83.3%	

流体制御の明日を開く



Appendix. オーケーエムについて



第1次中期経営計画 — 定量目標

(百万円)

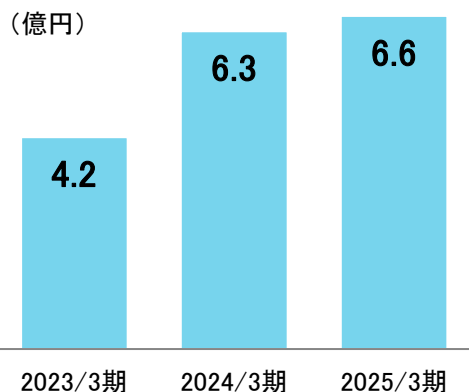
	2022/3期 実績	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高	8,456	9,500	10,900	12,400
陸用	4,288	4,800	5,500	5,700
船用	4,168	4,700	5,400	6,700
営業利益	662	630	790	1,070
営業利益率	7.8%	6.6%	7.2%	8.6%
ROE	10.5%	4.8%	5.7%	7.2%
配当性向	23.9%	30%を目途とする		

第1次中期経営計画 — 全社戦略

投資戦略(設備投資・研究開発投資)

設備投資計画

(億円)



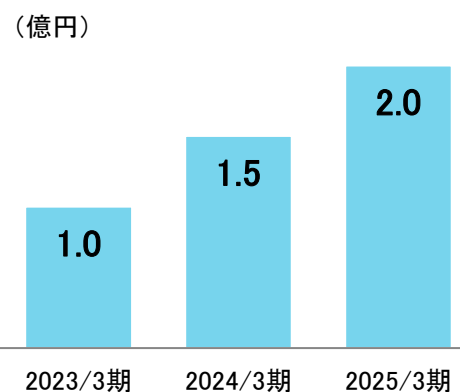
設備投資総額
(3年間累計) 17.1億円

新市場向け製品開発・
既存製品再開発
12.3億円

DX投資 3.1億円

研究開発投資計画

(億円)



研究開発投資総額
(3年間累計) 4.5億円

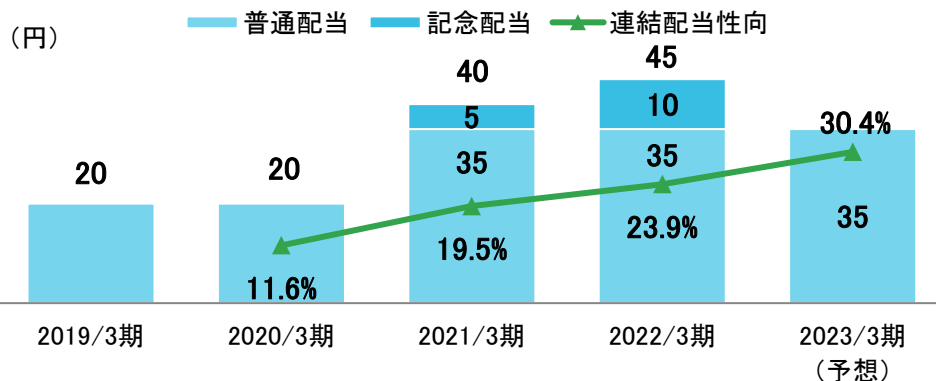
新市場向けバルブ開発
(LNG、水素、アンモニア等)

既存バタフライバルブ再開発
(品質、生産性、収益性見直し)

財務戦略・株主還元方針

1株あたり配当金額・連結配当性向の推移

(円)



・業績動向に加えて、新技術・新製品の研究開発投資や設備投資等の様々な資金ニーズに対応すべく内部留保の充実を図りつつ、配当の継続性、安定性にも十分留意して株主還元を実施する

・連結配当性向として概ね30%を目途とする

連結業績推移



(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
売上高	8,646	8,852	8,759	8,456
前年比	—	2.4%	▲1.0%	▲3.5
売上総利益	3,657	3,369	3,482	3,075
前年比	—	▲7.9%	3.4%	▲11.7
売上総利益率	42.3%	38.1%	39.7%	36.4%
販管費	2,318	2,475	2,472	2,413
前年比	—	6.8%	▲0.1%	▲2.4%
販管费率	26.8%	28.0%	28.2%	28.5%
営業利益	1,338	892	1,009	662
前年比	—	▲33.3%	13.0%	▲34.4%
営業利益率	15.5%	10.1%	11.5%	7.8%
経常利益	1,335	849	1,025	724
前年比	—	▲36.4%	20.8%	▲29.3%
経常利益率	15.4%	9.6%	11.7%	8.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	891	573	749	850
前年比	—	▲35.7%	30.8%	13.4%
当期純利益率	10.3%	6.5%	8.6%	10.1%
ROE	17.3%	10.1%	11.2%	10.5%

貸借対照表推移

(百万円)

<主な項目>	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
資産合計	10,884	10,318	12,006	12,365
流動資産	7,692	6,513	7,252	7,925
現預金	2,148	2,015	3,071	3,480
固定資産	3,192	3,804	4,754	4,440
有形固定資産	2,779	3,222	4,220	4,022
無形固定資産	111	257	242	190
投資その他の資産	303	323	291	227

負債合計	5,724	4,667	4,324	3,845
流動負債	3,433	2,272	2,099	2,166
固定負債	2,291	2,395	2,225	1,678
純資産合計	5,161	5,650	7,681	8,520
自己資本比率	47.4%	54.8%	64.0%	68.9%

会社概要

バルブの開発・設計から製造、販売までワンストップサービスを提供する、
1902年(明治35年)創業のバルブメーカー

商号	株式会社オーケーエム
代表者	代表取締役社長 奥村晋一
本社所在地	滋賀県野洲市市三宅446-1
創業	1902年(明治35年)1月
設立	1962年(昭和37年)5月31日
資本金	1,178,196,655円(2022年3月末時点)
連結売上高	8,456百万円 (2022/3期)
従業員数	連結:336名 単体:237名 *2022年9月末時点、臨時従業員を除く
拠点	【支店】東京、大阪 【営業所】名古屋、広島、福岡 【駐在員事務所】ホーチミン*、韓国 【工場】日野工場、東近江工場 【研究所】本社・研究開発センター(滋賀県野洲市) *ホーチミン駐在員事務所は、OKM VALVE(M)SDN. BHD.に属する。
連結子会社	【中国】奥村閥門(江蘇)有限公司 【マレーシア】OKM VALVE(M)SDN. BHD.
事業免許	経済産業大臣高圧ガス認定事業所(N弁類) ISO9001認定取得、ISO27001認証取得
株式上場	2020年12月 東京証券取引所第二部上場 2022年4月 東京証券取引所スタンダード市場

オーケーエムグループ①(国内拠点)

国内8拠点

本社・研究開発センター

日野工場

東近江工場

東京支店

大阪支店

名古屋営業所

広島営業所

福岡営業所



東近江工場





日野工場



オーケーエムグループ②(海外拠点)

製造・販売拠点




OKM VALVE(M)SDN. BHD.	奥村閥門(江蘇)有限公司
 <p data-bbox="685 679 1013 708">※マレーシア スランゴール州</p>	 <p data-bbox="1297 679 1987 708">(工場は2021年1月竣工・操業開始) ※中国 江蘇省 常熟市</p>
1990年設立	2019年設立 (2003年設立の蘇州法人より工場移転完了)
<p data-bbox="78 796 1011 905">オーケーエムの外注生産先でもあり、マレーシアの水道分野やパーム油を中心とした工業分野、ベトナムの水道分野などの東南アジア地域を中心にバルブの製造・販売を展開。</p> <p data-bbox="78 948 302 979">【主な生産品目】</p> <ul data-bbox="78 986 582 1055" style="list-style-type: none"> ・ゴムシートバタフライバルブ ・ハイパフォーマンスバタフライバルブ 	<p data-bbox="1050 796 1968 905">オーケーエムの外注生産先でもあり、中国の造船、半導体、食品、工業用ガス分野を中心に幅広い工業分野に対してバルブの製造・販売を展開。</p> <p data-bbox="1050 948 1274 979">【主な生産品目】</p> <ul data-bbox="1050 986 1551 1093" style="list-style-type: none"> ・ゴムシートバタフライバルブ ・ハイパフォーマンスバタフライバルブ ・ナイフゲートバルブ

販売・サポート拠点

韓国駐在事務所	韓国国内のエンジンメーカーへのサポートおよび事業拡大に向けたマーケティング活動を実施。
ホーチミン駐在事務所	ベトナム国内の水道分野・工業分野を中心にマーケティング活動を実施。

製品と用途

主な製品: バタフライバルブ、ナイフゲートバルブ、ピンチバルブ






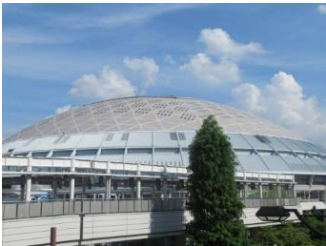
バタフライバルブ	ナイフゲートバルブ	ピンチバルブ
		
<ul style="list-style-type: none"> 弁体（輪っかの中の円板）を90度回転して開閉する。 中間開度での流量調整機能にも優れ、幅をとらず、省スペースで設置可能。 	<p>[電子制御バルブ]</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピューターからの信号によって弁体の開度を調整し、流体をコントロールする。 	<ul style="list-style-type: none"> 鋭いエッジを有するプレートの出し入れで開閉する。 各種スラリー、粉粒体、固形物、パルプストック等、一般のバルブでは処理できない流体を止めることが可能。
バタフライバルブ 売上構成比 84%(2022/3期)		その他 売上構成比 16%(2022/3期)

主な用途: 空調設備、造船、半導体、石油、化学、鉄鋼、電力、水道、食品など多様な流体配管に使用

※バルブ(弁)とは、主に配管などの内部を通す空気やガスなどの気体、水や油などの液体、あるいは粉体などの流体が通る空間の開閉や流体の制御および調節などができる可動機構をもつ機器の総称

オーケーエムの強み①

幅広い業界の大手優良顧客(納品先、最終需要先)基盤を確立

造船・重機	半導体	食品・医薬	超高層・複合ビル
 <ul style="list-style-type: none"> ・今治造船・JMU ・日立造船・三井E&S造船 ・三菱重工業・川崎重工業 ・マキタ・ヤンマー 他 	 <ul style="list-style-type: none"> ・キオクシア・東京エレクトロン ・ソニー・ローム ・京セラ・富士通 他 	 <ul style="list-style-type: none"> ・アサヒビール・カルビー ・キリンビール・キューピー ・ブルボン・ハウス食品 ・永谷園・マルコメ 他 	 <ul style="list-style-type: none"> ・常盤橋タワー(A棟) ・あべのハルカス ・横浜ランドマークタワー ・六本木ヒルズ森タワー 他
駅、空港施設	アミューズメント開発	海外	
 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪駅・東京駅 ・羽田空港・成田空港 ・関西国際空港 他 	 <ul style="list-style-type: none"> ・東京ディズニーシー ・ユニバーサルスタジオジャパン ・ハウステンボス ・ナゴヤドーム 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hyundai Heavy Industries Co.,Ltd.(韓国/船舶エンジン) ・Ajinomoto Co., (Thailand) Ltd.(タイ/食品) ・Taganito HPAL Nickel Coporation(フィリピン/ニッケル鉱山) ・上海中船三井造船柴油機有限公司(中国/船舶) ・南京聯合鋼鉄(中国/PSA) ・長江存儲科技有限責任公司(中国/半導体) ・Syarikat Air Terengganu Sdn bhd (SATU)(マレーシア/水道公社) ・Hanoi Water Works(ベトナム/水道公社) ・FGV Holdings Berhad(マレーシア/パーム油) 	

オーケーエムの強み②

自社が主体となった製品開発の推進

各種実験プラントを自社で所有してバルブ特性や流量特性などの実験を行い、データを収集、解析している。顧客の仕様に合わせた様々な試験が可能であるとともに、データ、ノウハウを自社内に蓄積してさらなる新製品開発に活用している。

高温流体試験



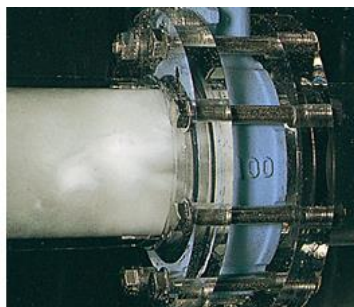
実際に製品が使用される温度環境を再現する試験で、電気ヒーターにて**最高700度**の熱風を発生させ高温状態でバルブの性能や特性を評価する。

ファイヤーセーフ試験



消火設備や可燃性流体を通す配管での使用を想定し、火災等で焼損した状態でも一定の性能が維持できているかどうかの性能を評価する。

キャビテーション試験



配管浸食・騒音・振動の原因となるキャビテーション(液体の流れの中で圧力差により短時間に泡の発生と消滅が起きる物理現象)発生時のバルブの性能や特性を評価する。

低温流体試験



実際に製品が使用される温度環境を再現する試験で、液体窒素を投入して**マイナス196度**の低温状態でバルブの性能や特性を評価する。

オーケーエムの強み③

幅広い取扱製品と耐熱温度範囲で、顧客のニーズに細やかに対応

広範囲にわたる業界に対応できる製品ラインナップを保有し、多品種・小ロットで、細やかなカスタマイズ製品を開発・供給できる。また、顧客と一体となり顧客の個別ニーズに合わせたカスタマイズバルブを開発している。

当社がカスタマイズするバルブ

型式	×	サイズ	×	部品	×	材質	×	制御方法	=	10万種類以上
<ul style="list-style-type: none"> ・バタフライバルブ ・ナイフゲートバルブ ・ピンチバルブ ・チェッキバルブ など		内径サイズ (最小25mm～ 最大3,000mm)		<ul style="list-style-type: none"> ・本体 ・弁体 ・シートリング ・上部弁棒 ・ガスケット 		<ul style="list-style-type: none"> ・ダクタイル鋳鉄 ・鋳鋼 ・ステンレス ・樹脂 ・ゴム など		<ul style="list-style-type: none"> ・レバー式 ・ギヤ式 ・シリンダ式 ・電動式 		

耐熱温度範囲は「-196℃～700℃」

⇒顧客ニーズに応じて、広範囲の温度帯に対応可能

＜様々な用途に用いられるバルブの例＞



化学薬品・石油オイル関係・
 高圧蒸気・高圧流体用
 ハイパフォーマンスバタフライバルブ

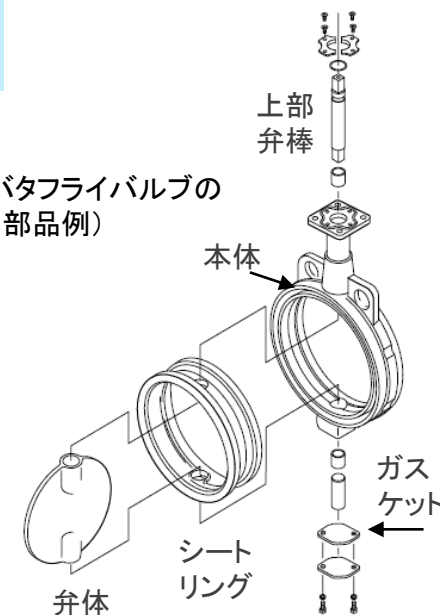


製紙・石油化学・化学・食品・鉱山・
 下水処理・高濃度・高粘度流体用
 ナイフゲートバルブ



ヘドロ・鉱石スラリー・セメント・粉体・
 パルプ・下水汚泥等用
 ピンチバルブ

一般的なバタフライバルブの
 内部構造(部品例)



■ 将来予測に関する注意事項

本資料に掲載している将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいています。そのため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

■ IRに関するお問い合わせ先

株式会社オーケーエム

管理統括本部 経営企画部 経営企画課

メールアドレス: prir@okm-net.co.jp